



四万十市ふるさと応援団 ニュース《第27号》 - 2012.1.6 -

団員の皆さま、お元気で新年をお迎えのことと思います。

四万十市はおかげさまで天候にも恵まれ、穏やかなお正月となりました。

皆さまにとって本年にご多幸がありますようお祈りいたしております。

さて、四万十市ふるさと応援団ニュース第27号をお送りします。

本年もふるさとの最新情報をどんどんお届けしますので、引き続き本市を応援してください。よろしくお願いいたします。



★ 年頭のごあいさつ 市長 田中 全 —「広報四万十」2012年1月号—

皆様それぞれ新しい夢と決意をもって新年を迎えられたことと思います。

昨年は3月の東日本大震災、9月の紀伊半島豪雨だけでなく、本市でも気象警報が9回も発令されました。

私は昨年7月、東北被災地を視察し、河口から上流12キロまで呑み込まれてしまった北上川流域の惨状を見て、川を遡る津波の破壊力に衝撃を受けました。

いま市政の最大の課題は、防災を中心とする「安全・安心なまちづくり」です。旧中村町は昭和21年、南海地震で全国最多の犠牲者（死者273人）を出しました。近い将来予想される次の南海地震では一人の犠牲者も出さない覚悟で諸対策に取り組んでいます。

キーワードは絆。人と人との扶（たすけあい）です。

四万十市は「清流に歴史と文化を映すまち」。基幹産業の第一次産業をベースに、山・川・海の幸や伝統文化などの観光資源等を融合させ、自然と共生した地域振興を進めていくことにより、市民の生活や健康を守り、安心して暮らせるまち、こころのふれあい、交流・ネットワークが広がるまちをめざしています。

全国から募集をしている「四万十市ふるさと応援団」が続々と増えています。団員の大半は地元出身者ではありません。旅行やお祭り、イベント（ウルトラマラソンなど）で一度来たことがあるなど、ちょっとしたご縁がきっかけの方々です。それだけ本市の自然、風土、文化、なによりもここに住むわれわれが魅力的なのだそうです。

今年(文久2年(1862年))、一條神社が創建されてから150年。下鴨神社に御神火をいただきに行くようになってから30年。

11月には、いちじょこさんにあわせて、全国京都会議(小京都の集まり)を開きます。われわれはもっとこの地に自信と誇りをもって、全国に発信していこうではありませんか。

■ 広報四万十に投稿してみませんか！

=====
広報四万十には団員の皆さまの投稿によるページを創設しています。

皆さまの地域の話やニュース、エッセイ、自慢話、写真など何でも結構ですので、ドシドシ投稿してください。

投稿者のうち掲載させていただいた方には、心ばかりのお礼として四万十の特産品を呈します。

投稿の要領は下記URLをご覧ください。

<http://www.city.shimanto.lg.jp/gyosei/assistance/toukou.pdf>